

## [研究会記事] 歴史地震研究会だより 2013 年 7 月～2014 年 6 月

歴史地震研究会幹事会

### 目次

1. 前号以降の歴史地震研究会の活動(2013年7月～2014年6月)と今後の予定	281
2. 第30回歴史地震研究会(2013年9月14～16日, 秋田大会)関係	282
・ 第30回歴史地震研究会報告	
・ 第30回歴史地震研究会 総会議事録	
3. 幹事会議事録	290
・ 2012年度第6回歴史地震研究会幹事会(2013年9月6日)議事録	
・ 2013年度第1回歴史地震研究会幹事会(2013年11月5日)議事録	
・ 2013年度第2回歴史地震研究会幹事会(2014年1月20日)議事録	
・ 2013年度第3回歴史地震研究会幹事会(2014年4月2日)議事録	
・ 2013年度第4回歴史地震研究会幹事会(2014年6月6日)議事録	
4. 第31回歴史地震研究会(2014年9月20～22日, 名古屋大会)関係	299
・ 第31回歴史地震研究会講演申し込み案内	
・ 第31回歴史地震研究会プログラム等	
5. 各種お知らせ・資料	306
・ 『歴史地震』原稿募集のお知らせ	
・ 歴史地震研究会会誌編集規程(2012年8月8日一部改定)	
・ 歴代研究会開催地一覧	
・ 歴史地震研究会への入会手続きのご案内	
・ 歴史地震研究会会則(2012年9月15日改正)	
・ 歴史地震研究会功績賞内規(平成24年9月15日幹事会承認)	
・ 歴史地震研究会役員および委員名簿(2014年7月1日現在)	

---

### 1. 前号以降の歴史地震研究会の活動(2013年7月～2014年6月)と今後の予定

#### 2013年

9月6日(金) 2012年度第6回歴史地震研究会幹事会(地震予知総合研究振興会)

9月14日(土)～16日(月・祝) 第30回歴史地震研究会(秋田市 秋田大学手形キャンパス)

14日 研究発表会, 総会

15日 研究発表会, 公開講演会, 懇親会

16日 巡検

11月5日(火) 2013年度第1回歴史地震研究会幹事会(地震予知総合研究振興会)

#### 2014年

1月20日(月) 2013年度第2回幹事会(地震予知総合研究振興会)

4月2日(水) 2013年度第3回幹事会(地震予知総合研究振興会)

6月6日(金) 2013年度第4回幹事会(地震予知総合研究振興会)

8月11日(月) 2013年度第5回幹事会(地震予知総合研究振興会) = 予定

9月20日(日)～22日(火) 第30回歴史地震研究会(名古屋市 減災連携研究センター) = 予定

## 2. 第30回歴史地震研究会（2013年9月14～16日，秋田大会）関係

### 第30回歴史地震研究会報告

2013年9月14日(土)から16日(月・祝)の3日間にわたって、秋田市にある秋田大学手形キャンパスで、第30回歴史地震研究会を開催しました。1日目および2日目午前には研究発表会を行い、2日目午後には秋田大学地域創成センターとの共催で、公開シンポジウム『歴史地震から秋田県の防災を考える：東日本大震災を踏まえて』を開催しました。また、3日目の巡検では、1704年岩館の地震による崩壊でできたとされる十二湖などを見学しました。

研究発表会には、88名(うち非会員13名)の参加があり、42件(口頭35件、ポスター7件、4件のキャンセルは含まず)の発表が行われました。また、巡検には37名、懇親会には48名、公開講演会にも多数の参加があり、盛会のうちに研究会を終了することができました。

主催：歴史地震研究会、共催：秋田大学、後援：日本地震学会

会場：秋田市 秋田大学教育文化学部3号館(手形キャンパス)

255室(講演会)、150室(ポスターセッション)、145室(公開講演会)

日程：2013年9月14日(土) 終日 研究発表会、夕刻 総会

9月15日(日) 午前 研究発表会、午後 公開講演会、夕刻 懇親会

9月16日(月) 終日 巡検

#### プログラム

◎ 9月14日(土)

#### 【研究発表会】

I 台湾の地震(9:00 - 9:30) (\*は発表者、以下同じ) 座長：水田敏彦

1. 植村善博：1935年台湾新竹－台中地震における被害と地形環境
2. 塩川太郎・植村善博：1935年台湾新竹－台中地震、台中州の地震記念碑について

II 九州、近畿の地震、津波、噴火(9:40 - 10:55) 座長：松浦律子

3. 島津奈緒未・壇一男・鳥田晴彦・一徳元・本村一成：1914年桜島の地震の震源規模の推定
4. 松岡祐也：1596年豊後地震における被害の再検証—豊後府内を除く地域について—
5. 松崎伸一・平井義人：寛永海部大分大野三郡図に記された上関村
6. 大邑潤三：文政京都地震(1830)による亀岡盆地の被害分析
7. 高野宏康：福井震災後における丸岡城の再建と「町民意識」

III-i 南海トラフの地震(前半)(11:05 - 11:50) 座長：宍倉正展

8. 松尾裕治・中野晋・村上仁士：高知県沿岸集落における「亡所」に着目した宝永地震津波の現地調査
9. 三神厚：南海地震による高知市の河川堤防被害

IV ポスター(13:10 - 14:10)

10. 山品匡史・久保篤規・大石佑輔：高知大学地震観測所所蔵の昭和南海地震の被害写真について
11. 兵藤守・安藤和人・馬場俊孝・堀高峰：歴史資料の波高データにもとづく南海トラフ地震発生シナリオの制約
12. 畠山幸司・高原卓司：長野県北西部の巨大地すべり群と中世に発生した大地震
13. 石辺岳男・村岸純・佐竹健治：1885年以降に関東及びその周辺で発生した中～大地震の類型化(その1) —既往研究とデータの収集・整理—
14. 松浦律子・中村操・小田桐睦弥：安政江戸地震に関する印東家文書：江戸城回りの被害情報
15. 行谷佑一・佐竹健治：869年貞観地震の規模の再検討：津波堆積物と浸水深を考慮したシミュレーション

ョンに基づく

16. 今給黎哲郎・林保・小門研亮・住谷勝樹：明治から昭和初期の測量記録(原簿)の電子化

III-ii 南海トラフの地震(後半)(14:10-16:00) 座長:石橋克彦

17. 鳴橋竜太郎：五ヶ所湾湾奥部における安政東海地震津波の浸水高分布
18. 磯田道史：静岡市付近の宝永津波史料一波高推定の可能性をさぐるー
19. 都司嘉宣：元禄地震津波(1703)の大名領被害記録を完全に読み解けばどうなる？
20. 今村隆正・北原糸子・千葉達朗：元禄地震で発生した土砂災害(神奈川・山梨県域)
21. 石橋克彦：684年と887年の間に未知の南海トラフ巨大地震があるか？
22. 松浦律子：1605年慶長地震は南海トラフの地震か？
23. 浪川幹夫：鎌倉における明応・慶長年間の〈津波〉について

V 中部地方の地震(16:05-16:50) 座長:藤原治

24. 武村雅之・都築充雄：熱海・伊東の関東大震災を歩く
25. 藤原治・石辺岳男・千葉崇・佐竹健治・金子浩之・市川清士：伊豆半島東岸伊東市における津波堆積物の掘削調査
26. 河内一男：1918年信州大町地震の断層運動とそのテクトニックな意味
27. 野越三雄・王寺秀介・中村亮一：秋田最古の830年天長地震を探る

VI 関東の地震(16:55-17:40) 座長:石辺岳男

28. 武村雅之：神奈川県中部の関東大震災を歩く
29. 村岸純・佐竹健治：1703年元禄関東地震・津波により生じた生活環境の変化

【歴史地震研究会総会】 17:45-18:45

◎ 9月15日(日)

【研究発表会】

VII 日本海の地震と津波(8:00-9:30) 座長:諸井孝文

30. 西村裕一・中村有吾・Nadia Razjigaeva・Larisa Ganzei・Kirill Ganzei・Victor Kaystrenko：ロシア沿海州における歴史時代及び先史時代の津波堆積物調査
31. 二木敬右・石井寿・中村亮一：天保四年(1833年)の庄内沖地震による輪島での津波高さの再検討-DEMを利用した検討-
32. 都司嘉宣・岩瀬浩之・原信彦・岩渕洋子・今村文彦：佐渡の沿岸集落での歴史津波の浸水高さ
33. 相原淳一・駒木野智寛・大畑雅彦：山形県飛島の津波堆積層と遺跡との関係ー特に考古学的な視点から
34. 平川一臣：日本海東縁の津波堆積物:巨大津波履歴と課題

VIII 東北の地震, 津波, 噴火(9:40-10:55) 座長:西山昭仁

35. 水田敏彦・鏡味洋史：1894年庄内地震の調査日誌・紀行文から読取る被害状況
36. 林信太郎：1801年(享和元年)に発生した鳥海山の火山泥流
37. 栗山知士：西暦857年(天安元年)比内地震に伴う崩壊地形(予察)
38. 蝦名裕一：ビスカイノ報告における慶長奥州地震津波の記述について

IX 土砂災害及び地震全般(11:05-12:05) 座長:武村雅之

39. 井上公夫・相原延光：関東大震災による白糸川の大規模土砂移動
40. 相原延光・井上公夫：1923年関東大震災前後の天気報告について
41. 樋口茂生・東 将士・稲田 晃・伊藤彰秀・岩本広志・上加世田 聡・川崎健一・楠 恵子・佐藤伸司・品

田正一・末永和幸・渡辺拓美：続 現代生成層—その災害との関わり—

42. 西山昭仁：歴史地震における被害評価方法の試案

【公開講演会】『歴史地震から秋田県の防災を考える：東日本大震災を踏まえて』 13:30～16:10

13:30 - 13:35 ご挨拶

13:35 - 14:05 宍倉 正展「古地震研究と東日本大震災」

14:05 - 14:35 小松原 琢「秋田県周辺の活断層と歴史地震」

14:45 - 15:15 水田 敏彦「秋田県で発生した明治以降の歴史地震とその教訓」

15:15 - 15:45 伊藤 和明「日本海中部地震を振り返って」

15:45 - 16:05 質疑応答

閉会の言葉 武村 雅之(歴史地震研究会会長)

【懇親会】(秋田ビューホテル) 18:00～20:00

◎ 9月16日(月)

【巡検】

「二ツ井地震, 岩館地震, 日本海中部地震の跡を訪ねて」 08:30～17:20

案内者 林 信太郎, 小田桐睦弥

見学箇所：二ツ井地震(1955)で落下した響橋の遺構、八峰町チゴキ崎灯台の慰霊碑、十二湖で岩館地震(1704)による崩壊地、青池など

### 第30回歴史地震研究会 総会議事録

日時：2013年9月14日(土)17:45～18:45

場所：秋田大学教育文化学部3号館255号室

1. 定足数確認 参加者54名 会員263名の10%を越えるので総会成立を宣言(松浦副会長)
2. 武村会長挨拶 忌憚のない意見を求めます。
3. 議長選出 立候補なし。小松原総務幹事より植村会員を議長に推薦。植村会員が議長に選出される。
4. 植村議長挨拶
5. 対外活動の報告(小松原総務幹事)  
以下の活動を報告  
(1) 日本の歴史地震史料拾遺6の編纂(宇佐美・越後・石井・武村)  
(2) 「日本被害地震総覧 599-2012」の編纂(宇佐美・石井・今村・武村・松浦)  
(3) 「元禄地震の災害教訓に関する検討会」委員(伊藤・北原・都司・宍倉・武村)  
(4) 2013年2月8日 第3回震災予防講演会の講演会「関東大震災と富士山噴火」に後援として参加・武村会長が講演。  
(5) 2013年8月27日 日本地震学会・地震工学会・歴史地震研究会共催「関東大震災90周年シンポジウム」を実施、武村会長が講演。  
(6) 2013年9月1日 横浜市ふるさと歴史財団主催の「関東大震災90周年・横浜の関東大震災記念講演会」に共催、武村会長が講演  
(7) 2008年に歴史地震研究会が編集した「地図にみる関東大震災」を日本地図センターが復刻・販売
6. 総務委員会報告(小松原総務幹事)  
幹事会に監査役を迎え、徹底して審議を行うように努めてきた。  
今年度は6回の幹事会を開催し、功績賞の授与に関する諸規定、決算報告対応、Web掲載の可否、会費滞納者対応、2015年国際第四紀学連合第19回大会対応などについて議論した。

7. 行事委員会報告(林行事幹事)

第30回歴史地震研究発表会・シンポジウムならびに巡検の開催準備を行った。

主催：歴史地震研究会・共催：秋田大学・後援：日本地震学会

会場：秋田大学教育文化学部3号館

日程：2013年9月14日(土)～16日(月)(14日：研究発表会・総会／15日：研究発表会・公開講演会・16日：巡検「岩館地震・日本海中部地震の跡を訪ねて」)

8. 編集出版委員会報告(金田編集出版幹事)

2013年7月末日に『歴史地震』28号を発行した。論説・資料10編，報告8編，講演要旨28編，研究会記事1編を掲載し，総頁数は214頁と3年ぶりに200頁超えの分量となった。印刷部数は480部，会員260名および無償送付先(大学・公立図書館等)197箇所を送付した。また，今号より，2年以上会費を滞納している会員については，送付を差しとめた。

9. 広報委員会(石辺広報幹事)

広報委員会ではメーリングリスト musha および学会ホームページを通じて迅速な情報提供に努めた。歴史地震 27号(2012)のPDF版や幹事会議事録，会則改正・功績賞内規等のホームページへの掲載を行うとともに，メーリングリスト musha の運営・管理を行った。

大会への発表募集・会場等の案内や公開シンポジウムについて，日本地震学会・日本活断層学会・日本第四紀学会・日本地質学会・史学会・日本史研究会・地方史研究協議会等へニュースレター・メーリングリスト・ホームページ掲載および掲示を通して告知を行った。

10. 決算報告

10-1. 2012～2013年度の決算・会費支払い状況は以下の通り。

**歴史地震研究会 2012-2013年度 決算報告**

	項目	予算額	決算額	増減	内訳
収入	2012-2013年度納入会費	750,000	846,000	96,000	282名×3000円
	2012-2013年度以前会費(未払い者)	0	222,000	222,000	74口×3000円
	会誌バックナンバー売り上げ	0	12,000	12,000	会誌5, 予稿集2
	会誌口絵代	0	66,000	66,000	44000円+22000円
	銀行利息	0	32	32	16×2
	横浜大会剰余金	0	159,636	159,636	
	前年度繰越	1,245,483	1,245,483	0	
	合計	1,995,483	2,551,151	555,668	

支出	横浜大会補填	0	0	0	剰余金のみ
	秋田大会準備費	200,000	0	▲ 200,000	仮払いなし
	歴史地震28号印刷代	493,500	535,227	41,727	470部,送料・振込料込
	同編集費	10,000	17,420	7,420	査読料,編集補助,振込料込
	HP管理費	12,000	12,210	210	振込料210円込
	会議費	200,000	183,590	▲ 16,410	
	功績賞賞状作成費	0	36,435	36,435	振込料420円込
	雑費(通信費・文房具購入など)	60,000	36,921	▲ 23,079	
	合計	975,500	821,803	▲ 153,697	

次年度繰越金	1,019,983	1,729,348	709,365
--------	-----------	-----------	---------

## 会費支払い状況

項目		口数	単価	金額	備考
2012年度 会費	会費	104	3,000	312,000	昨年度分あわせて232名納入
	新人	27	3,000	81,000	
2013年度 会費	会費	148	3,000	444,000	
	新人	3	3,000	9,000	
会費滞納分		74	3,000	222,000	
合計				1,068,000	

注)2013年9月3日時点の会員の会費納入率

i) 2012年度会費納入率=248名/260名=95.4%

ii) 2013年度会費納入率=149名/263名=56.7%

10-2. 第29回大会(横浜大会)の収支

### 2012年横浜大会 収支

	項目	金額	内訳
収入	参加費(会員)	75,000	1000円×75名
	参加費(非会員)	100,000	2000円×50名
	懇親会会費(一般)	275,000	5000円×55名
	巡検参加費	31,000	1000円×31名
	予稿集代	3,000	1000円×3部
	大会準備金	150,000	運営費仮払い金として(昨年度決算項目)
	合計	634,000	

支出	大会会場費	53,300	開港資料館,都市発展記念館,開港記念会館
	予稿集印刷代	47,670	150部,消費税・振込料420円込
	懇親会代金	270,000	参加人数54名,消費税込
	巡検代金	9,460	案内ガイド代,保険料
	講師謝金	40,000	20000円×2名
	アルバイト代	40,000	10000円×2日×2名
	文具代	5,509	コピー用紙代,切手代,送料・他
	雑費	8,425	講演会弁当代,お茶代
	合計	474,364	

収支差額	159,636	剰余金
------	---------	-----

10-3. 秋田大会の状況報告

秋田大会では初日(14日)で会員69名,非会員13名参加

10-4. 2012~2013 年度入退会者の報告および事業年度の説明

2013 年 9 月 1 日現在で 263 名の会員，前年比 12 名増加。

事業年度の説明：会誌は 7 月末出版，事業年度は 9 月 1 日～8 月 31 日  
8 月入会者のみは新しい歴史地震を配布して次年度の会費を請求する。

## 2012-2013年度 入退会者

2012年9月1日時点の会員数：251名

2013年9月1日時点の会員数：263名

■新規入会者：32名

浦谷裕明	梶原 洋	永治日出雄
小川典芳	釜田正毅	天野真志
藤井嘉徳	岸田暁郎	保立道久
奥野真行	藤原 崇	本吉正宏
駒木野智寛	川添俊一	藤田辰也
塩川太郎	苅谷愛彦	高橋恭平
鳥田晴彦	島津奈緒未	山品匡史
高岸冨佳	鳴橋竜太郎	兵藤 守
畠山幸司	八柳信之	松崎伸一
安田容子	高野靖彦	中井春香
二木敬右	文屋信太郎	(敬称略，入会順)

■退会者：8名

杉本めぐみ	常光康弘	翠川三郎
古川信雄	川島 周	角野由夫
松田 恵	石川有三	(敬称略，退会順)

■会費長期滞納につき除名者：12名

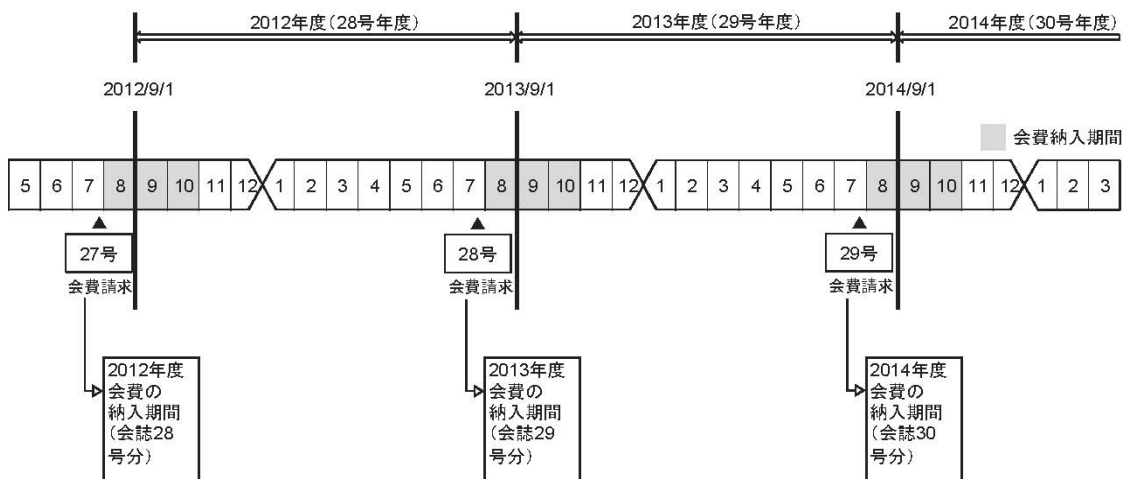


図 歴史地震研究会の事業年度と年会費の納入期間について

11. 監査報告(永井監査役)

預金残高・現金・出納簿は正しく管理されている。

会費滞納者の洗い直しは手間のかかる作業だった。幹事の手間を省くよう、早期会費納入にご協力お願いしたい。(中村監査役)

12. 決算報告の承認

以上の1号議案についてご質問はないですか。ご意見のある方は挙手をお願いします。(植村議長)

会場 意見無し

1号議案の承認をはかります。承認いただける方は拍手をお願いいたします。(植村議長)

会場 拍手

では決算報告は承認されました。(植村議長)

13. 2013~2014 年度会長の選出

立候補の届け出はなかったため、2012~13 年度幹事会から武村会長を推薦します。(小松原総務幹事)

武村会長を承認される方は拍手をお願いいたします。(植村議長)

会場 拍手

武村会長が選出されました。(植村議長)

14. 2013~2014 年度監査役の選出

北原会員・諸井会員を監査役としてお願いしたい。(小松原総務幹事)

ご承認くださる方は拍手をお願いします。(植村議長)

会場 拍手

では北原会員・諸井会員が監査役に選出されました。

15. 2013~2014 年度会長挨拶および新幹事の指名

では、新会長からのご挨拶をお願いします。(植村議長)

武村新会長 10 年間副会長と会長をやってきました。もう一年会長を続けさせていただきます。昨年度は会費滞納者の対応を諸井財政幹事が中心となって処理してくれました。その結果、多くの会員がきちんと会費を納めてくださいました。その結果、最初に思っていた以上に滞納分を含めた会費が集まりました。このことから積極的に研究会を盛り立ててくれる方ばかりであることを感じました。もう一年頑張ってください。宜しくをお願いします。

特に諸井前財政幹事にはお礼を申し上げたいと思います。皆様には拍手をお願いします。

北原前会長と諸井会員には監査をお願いいたします。

幹事を指名します。名前を呼ぶので出てきていただきます。

副会長は松浦さん(留任)

総務幹事は小松原さん(留任)

財政幹事は内田さん(新任)

編集出版幹事は金田さん(留任)

広報幹事は石辺さん(留任)

行事幹事は都築さん(新任)

以上の方は宜しくをお願いいたします。

各幹事より一言をお願いいたします。

各幹事挨拶

16. 2014 年大会について

2014 年大会は 9 月 20 日~22 日に名古屋大学減災館で行います。巡検では三河地震の被災地である幸田町と昭和東南海地震の被災地である半田市を訪ねる予定です。(都築行事幹事)



## 歴史地震研究会 2013-2014年度 予算案

	項目	予算額	内訳
収入	会費	780,000	260名 × 3000円
	前年度繰越	1,729,348	
	合計	2,509,348	

支出	歴史地震29号印刷費	548,000	(1100円 × 480部),送料込み+諸費用
	同編集費	20,000	査読料+編集補助謝金
	HP管理費	12,000	
	会議費	200,000	
	功績賞関連費	100,000	
	歴史地震アーカイブ費	100,000	
	雑費(通信費・文房具購入など)	60,000	
	秋田大会補填	50,000	
	次回大会準備費	50,000	
	合計	1,140,000	

<b>次年度繰越金</b>	<b>1,369,348</b>
---------------	------------------

### 17. 2013～2014 年度の予算案説明

予算案を説明します(内田財政幹事)

予算案についてご質問はありませんか？(植村議長)

アーカイブ費は 10 万円のできるのですか？(植竹会員)

実はすでに電子化できているので、可能と思います(松浦副会長)

そのほかにご質問はありませんか。(植村議長)

内容ですので 4 号議案の 2013~2014 年度予算の承認に入ります。予算案を承認される方は拍手をお願いします(植村議長)

会場 拍手

では予算案は承認されました。以上で議事は終了しました。(植村議長)

植村議長ありがとうございました。ではこれを以て第 30 回歴史地震研究会総会を閉会いたします。ありがとうございました。永井・中村両監査役にお礼の拍手をお願いします。(松浦副会長)

会場 拍手

閉会

### 3. 幹事会議事録

#### 2012 年度第 6 回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2013 年 9 月 6 日(金)17:00~19:30

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:武村雅之・松浦律子・諸井孝文・内田篤貴・都築充雄・金田平太郎・林 信太郎・小松原 琢・石辺岳男・中村 操・永井九一

#### 1. 秋田大会について

- ・功績賞受賞者からは参加費は徴収しない、功績賞受賞者の旅費は財政幹事が現金を準備して支払う。
- ・講演要旨集・巡検案内書は現在印刷中。原稿の書式は一定でないが、来年は統一書式を作ったほうがよい。講演要旨集の電子ファイルを編集幹事に送ること。
- ・座長(タイムキーパー兼務)は以下の方に依頼する
  - (1) 台湾の地震:水田会員
  - (2) 九州・近畿の地震・津波・噴火:松浦会員
  - (3) 南海トラフの地震(前半):宍倉会員
  - (4) 南海トラフの地震(後半 1):石橋会員
  - (5) 南海トラフの地震(後半 2):藤原会員
  - (6) 中部地方の地震:行谷会員
  - (7) 関東の地震:石辺会員
  - (8) 日本海の地震と津波:諸井会員
  - (9) 東北の地震・津波・噴火:西山会員
  - (10) 土砂災害及び地震全般:武村会員
- ・東大出版会および井上会員の本のブースは受付脇に机を並べる。
- ・ポスターは壁に磁石かテープで張り付けて発表。
- ・公開講演会の最初の挨拶は秋田大学地域創生センター長に依頼中、司会は林行事幹事が担当する。
- ・公開講演会の要旨は前日までに印刷する。
- ・公開講演会のポスターの大きさを測り、松浦副会長に連絡すること。
- ・巡検下見の結果、二ツ井地震の跡を訪ねることは時間的に無理と判明した。その旨 musha と HP を通じて会員に連絡する。
- ・巡検で日本海中部地震の話をしていただく工藤先生には謝金を支払う。
- ・巡検参加者の保険は加入手続き済み
- ・懇親会は会場確保済み、当日飛び込み参加も受け入れる。
- ・懇親会の司会は水田行事委員に依頼済み。
- ・来賓は功績賞受賞者、秋田大学地域創生センター長の 2 名。
- ・功績賞表彰の司会は松浦副会長が行う。功績賞受賞者に一言言っていただく旨、副会長から依頼する。
- ・アルバイトは秋田大学の学生 2 名を確保済み。13 日の会場設営等を含め 1 人 2 万円支払う。
- ・アルバイト経費のほか、切手・封筒代は研究会が支払う。
- ・参加登録者・当日参加者の領収証(押印)は完成。
- ・巡検当日費用・昼食代などの現金は諸井財政幹事が保管する。バス会社からの請求書はかなり遅い時期に発送される可能性が高い。
- ・13 日(大会前日)の 16 時に秋田大学教育文化学部 3 号館 255 室に集合し、会場設営を行う。
- ・公開講演会のポスターは 14 日朝持ち込み予定。
- ・大会用品 1 式を 11 日必着で林研究室に送ること。

2. 総会对応
  - ・総会の冒頭も松浦副会長が功績賞表彰式のことを会員に伝える。
  - ・総会資料は完成版を早期に作成し、回覧すること。
  - ・長期滞納者対応:会費の長期滞納者は除名扱いとするが滞納分を総会までに完済した場合は通常の退会者とする。
3. 入退会者報告
  - ・角野由夫氏・松田恵氏・石川有三氏の退会を承認
  - ・松崎伸一氏・安田容子氏・高野靖彦氏・中井春香氏・二木敬右氏・文屋信太郎氏の入会を承認
4. 2014 年大会について
  - ・2014 年大会は 9 月 20 日～22 日に名古屋大学減災館で行う。
5. 2015 年大会について
  - ・2015 年大会は京丹後市で行う方向で調整する。
6. 2013～14 年度予算案について
  - ・功績賞関連費 10 万円、会誌アーカイブ化関連費 10 万円を新たに計上するなど予算案の見直しを行った。
7. JST 対応について
  - ・JST(科学技術振興機構)から歴史地震の Web 版を JST のデータベースに取り込みたいという申請が来ている。これにどう対応するか議論した。
  - ・金田編集出版幹事がこの件のまとめ役となり次年度継続審議することに決まる。
8. 編集出版委員会報告
  - ・7 月末に歴史地震 28 号を発行、480 部印刷し、会員 260 名、無償配布 197 機関に発送。
  - ・9 月 17 日に予定していた編集委員会は延期。
9. 広報委員会報告
  - ・秋田大会の第 2 報を HP に掲載。
  - ・新たに 2 名が musha に登録
  - ・地方史研究会から会誌が寄贈された。この表紙を HP 上に掲載すること。
10. 著作権譲渡について
  - ・17 号(2001 年)以前の会誌を HP に掲載するにあたって、著者からの著作権譲渡が必要となる。この件について可能な限り著者に連絡をとって承認を受けること。小松原総務幹事がこの件を担当。

## **2013 年度第 1 回歴史地震研究会幹事会 議事録**

日時：2013 年 11 月 5 日(火)17:00～19:00

場所：地震予知総合研究振興会会議室

出席者：武村雅之・松浦律子・林 豊・内田篤貴・都築充雄・金田平太郎・石辺岳男・北原糸子・諸井孝文・小松原 琢・林 信太郎

1. 新役員挨拶
2. 秋田大会の反省点(林信太郎旧行事幹事)
  - ・早めに準備は始めたが、最後にばたついた。
  - ・講演申込み方法がさまざまである。
  - ・非常に講演件数が多かった。公開講演会の開始時間を先に決めてしまっていたので、2 日目が朝 8 時開始となってしまった。また時間のやりくりで苦労した。

- ・次回以降、講演要旨の書式を統一したほうが良い。講演要旨では英文タイトルを除いてもよいという意見があった。
- ・講演要旨はワードとPDFで出してもらおうように連絡していたが、両方出してくれた人は少なかった。周知を徹底すべきだった。
- ・公開講演会のポスターを県内の人の集まりそうな機関に送ったが、白黒だったためか十分に利用してもらえなかった。公開講演会は聴講者が少なかった。
- ・ポスター発表者に対してもっと早くからサイズを連絡したほうが良かった。
- ・巡検の下見はもっと早い時期に行うべきだった。
- ・講演要旨の表紙のイラストは研究会のサイトに掲示しておくべき。
- ・巡検案内書の執筆に追われる結果になった。もっと早めに準備をすべきだった。
- ・座長の決定は早めに行ってプログラムに掲載したほうが良い。
- ・講演要旨を催促したら、全員から要旨が届いた。
- ・巡検参加者が途中で入れ替わり、無保険で参加した人もいた。
- ・名札はもっと増やしたほうが良い。
- ・巡検は悪天候の中で強行したが、取りやめも含めて検討すべきだった。警報が出たら中止などの方策を検討すべき。

### 3. 秋田大会収支報告(諸井旧財政幹事)

- ・受付状況 会員 75 名 + 非会員 13 名、計 88 名の参加
- ・巡検参加者 会員 34 名 + 非会員 3 名、計 37 名
- ・全体収支 バス代を除いて剰余金 99830 円 バス代(78000 円程度)を払うとトントンか少し余る程度。教室の使用料・巡検下見代が求められなかったため、黒字になった。
- ・予稿集代は大会収支に入れていない
- ・功績賞関連費も入れていない。

秋田大会関係で今後必要なこと

- ・バス会社に早く請求書を出してもらおう(諸井旧財政幹事)
- ・大会参加記(原田さん)・巡検参加記(山中さん)の原稿をもらうこと(金田編集出版幹事)

### 4. 新規入退会報告(諸井財政幹事)

天野英樹さん・鏡味洋史さん・田久昌次郎さん 3 名入会し、全会員数は 263 名に 28 号を送ること(小松原旧総務幹事)  
入会申請先を内田新財政幹事に変えること(石辺広報幹事)

### 5. 広報幹事報告(石辺広報幹事)

- ・歴史地震の原稿募集のお知らせを掲載した。
- ・1 名 musha 加入申請。
- ・役員交代をホームページに反映させる。
- ・研究会ホームページで長期間にわたって修正していない箇所を修正したい。
- ・最近のイベントは削除・更新の量が多いので、片手間にはできない。  
→最近のイベントは削除することに
- ・2005 年以降の会員がかかわった書籍の更新をどうするか?  
→関連書籍・雑誌のページは削除
- ・リンクの更新はどうか  
→地震学会の「被害地震年表」や推本の「日本の地震活動」などリンクが古いものは削除する。生きているリンクは掲載する。
- ・開始バックナンバーの残部の確認依頼が来るので、○Δ×で残部を示す(総務幹事が残部数を広報幹事に

伝える)

- ・都司会員が地震研に大量にバックナンバーを残していったので、石辺広報幹事はそのリストを作成し、総務幹事に送る。
6. 総会議事録の確認(小松原旧総務幹事)
    - ・総務幹事が原案を作成し、メールで回覧、一部修正したものを承認した。
  7. 退会勧告について(武村会長・諸井旧財政幹事)
    - ・できるだけ安くて多くの人に入ってもらうことが大事。会誌を送付停止する前に該当者に連絡するほうがよい。
    - ・内田財政幹事が滞納者のリストをつくって、12月をめぐりに払っていない人に連絡する。
  8. 著作権について(小松原総務幹事)
    - ・秋田大会で著作権譲渡の承認をいただいた人以外の名簿を作成・物故者を確認。小松原総務委員が担当して連絡・依頼をとる。
  9. 東大日本史研究室への会誌の送付について(小松原総務幹事)
    - ・27号以降は送付している。また21～22号は研究室で持っている。23～26号について石辺広報幹事が作成する都司会員の残していった図書リストをみて、バックナンバーが0部にならないように配慮して総務幹事が送付する。
  10. 功績賞候補について(武村会長)
    - ・今年度中に次回大会における授賞者を選考する。(会長・副会長・財政幹事・総務幹事)
  11. 2014年2月7日に震災予防講演会を開催する。共催・後援の名義使用を承認してほしい(武村会長)
    - ・詳細については次回幹事会で紹介する。
  12. 国文学研究資料館より書誌情報に関する情報提供の依頼が来ている(松浦副会長)
    - ・実施は平成26年度の予定。
  13. 来年度・再来年度大会(都築行事幹事)
    - ・大会の場所を確保した。巡検は三河地震・東南海地震で。
    - ・三河の人が来ないか？多くの来場が予想される。公開講演は濃尾地震・東南海地震・三河地震を話題とする。
    - ・再来年大会は京丹後市を予定していたが、2015年9月15日から開催されるジオパーク行事(APGN)と重なってしまうので、別の年にずらす可能性が出てきた。今のところ京丹後市の反応を待つ。歴史地震研究会がAPGNに一部だけ共催ならOKだが、全部共催となると実行困難になる。
    - ・再来年の予定については継続審議とするが、つくば(研究交流センター)案が出された。
  14. 次回幹事会:2014年1月20日17:00～(月曜)地震予知総合研究振興会を予定。

## **2013年度第2回歴史地震研究会幹事会 議事録**

日時：2014年1月20日(月)17:00～19:15

場所：地震予知総合研究振興会会議室

出席者：武村雅之・松浦律子・林 豊・内田篤貴・都築充雄・石辺岳男・金田平太郎・小松原 琢・諸井孝文

### 1. 新規入会者の承認

内田財政幹事から、荒川 宏氏・蟹江由紀氏・柴田 亮氏の入会申請について報告があった。この3名の入会を承認した。

## 2. 会誌の頒布および寄贈について

富士宮市図書館から受けた歴史地震 17～19 号のバックナンバーの寄贈依頼があり、残部がある号についてこれに応じることとした。また、非会員からの歴史地震の購入の申込みが 3 件あり、いずれも有償でこれに応じることとした。

非会員からの購入申込みが多いことから、会員数と図書館等への無償配布数の比などを考慮して非会員への歴史地震の販売価格を検討し、以下のとおり変更することを決定した。

現在 会員 1,000 円／部、非会員 2,000 円／部

変更日 2014 年 1 月 21 日申込み分から

変更後 会員 1,000 円／部、非会員 3,000 円／部(幹事会で承認が得られた場合に限り販売)  
次回の幹事会以降、無償配布先の見直しをすることを確認した。

## 3. 2014 年大会について

都築行事委員長から、9 月 20 日(土)～22 日(火)に行う予定の大会の準備状況について、以下のとおり報告があった。

- ・公開講演会は 21 日、巡検は 22 日に行う。
- ・現在建設中の名古屋大学減災連携研究センターを研究発表会の会場とし、口頭発表と総会の会場は減災ホール(定員は机ありで約 100 名)、ポスター発表会場はホール前の減災ギャラリーを予約済。
- ・21 日(日)の公開講演会の会場も、名古屋大学 IB 電子情報館大講義室(定員 300 名)を予約済。
- ・懇親会は名古屋大学内のレストランを予定。
- ・巡検は、幸田町(三河地震の被害跡)、半田市(東南海地震慰霊碑など)を目的地とすることを検討中。
- ・5 月末を講演申込み締切とする予定。

以上の報告を受けて、第一報として日時・場所を研究会のホームページ、musha メーリングリストで報せるとともに、日本地震学会ニュースレター 3 月号への掲載を依頼する準備をすることとした。

## 4. 2015 年大会について

2015 年大会の候補地と考えていた京丹後市では、近い時期に別の会議が行われる可能性があることが分かり、つくばも候補地に加えて検討を進めることにした。

## 5. 歴史地震の編集状況

金田編集出版委員長から、歴史地震第 28 号と 29 号について以下のとおり報告があった。

- ・28 号に掲載論文は、2 月に web で公開に向けて準備中である。
- ・29 号への投稿が多く論説・資料・報告など計 20 編以上で、査読システムを定めた編集規定の適用後(23 号以降)では最も多い状態である。このため、現在の編集委員会(委員長と委員 2 名)の体制で編集作業を進めることは極めて厳しいので、幹事会でサポートする体制を要望する。

歴史系の投稿、研究会で未発表の投稿が多いことが 29 号の特徴だといえる。編集体制を補強するため、何人かの役員が編集担当を務め、必要に応じて、編集委員を追加するという対応を確認した。査読者も多く必要になるため、担当編集者でない編集委員が査読者になることも認めるなど、運用を工夫することを確認した。

## 6. 歴史地震の利用許諾願い

金田編集出版委員長から、科学技術振興機構(JST)による利用許諾願いへの対応について説明があった。歴史地震の論文の書誌情報と抄録を JST で作成し、J-Global と J-Dream3 というデータベースで公開するために利用許諾依頼書が歴史地震研究会に送られたものである。日本語抄録を JST で作成すること、web で論文を見られることから、幹事会では利用許諾の手続きは不要と判断した。

## 7. 歴史地震の過去の論文の著作権について

小松原総務委員から、著作権に関する明確な規定がない歴史地震第 1～16 号に掲載された論文等に関して、著者から論文等の著作権を歴史地震研究会に譲渡していただく手続きの進捗について報告があった。「著作権譲渡のお願い」の文書を可能な限り著者に届けて承認を受けるため、会員には会誌に同封し、住所がわかる非会員などには文書を送ることで、手続きを進めることを確認した。

## 8. 功績賞候補について

## 9. 共催と後援の依頼について

武村会長から、以下の 2 件の依頼があったことが報告された。

### (1) 日本地震工学会から第 4 回震災予防講演会への後援名義使用の依頼

第 4 回震災予防講演会 人と自然と歴史に学ぶ防災論—楽しく学び賢く防ご—

日時:2014 年 2 月 7 日(金)、場所:パシフィコ横浜・アネックスホール

主催:日本地震工学会

### (2) 首都圏形成史研究会からシンポジウムへの共催依頼

第 91 回研究例会・シンポジウム「歴史災害を伝える—“災害史”展示の現状と課題—」

日時:2014 年 4 月 5 日(土)、場所:青山学院大学

主催:首都圏形成史研究会

歴史地震研究会に求める協力:広報の支援、「歴史地震」へシンポジウム報告を掲載

いずれの依頼も承諾することを決めた。首都圏形成史研究会のシンポジウムについては、歴史地震研究会でのシンポジウム案内を掲載すること、シンポジウム終了からすみやかに原稿が投稿されれば次号の歴史地震に掲載することを確認した。

## 10. ホームページの管理・運営などについて

石辺広報委員長から、歴史地震研究会ホームページの大幅な修正をおこなったことと、修正内容について報告があった。また、musha メーリングリストに 1 名を追加登録したことが報告された。

ホームページの修正案について議論し、「歴史地震」のバックナンバーの在庫問合せへの対応として、販売できる残部が有る号をホームページで示すこと、歴史地震研究会のはたえをどこかに入れるように、修正することを決めた。

## 11. 次回の幹事会

2014 年 4 月 2 日(水)17 時からを予定。

## **2013 年度第 3 回歴史地震研究会幹事会 議事録**

日時:2014 年 4 月 2 日(水)17:00～19:15

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:武村雅之・松浦律子・林 豊・内田篤貴・都築充雄・石辺岳男・金田平太郎・北原糸子・諸井孝文

### 1. 新規入会者の承認

内田財政幹事から、友安航太氏・木戸崇之氏・塚田哲弥氏・矢内一磨氏・谷脇 繁氏の入会申請について報告があった。この 5 名の入会を承認した。

### 2. 口座の移設

内田財政幹事から、歴史地震研究会の口座を 3 月 26 日に三井住友銀行荏原支店、中馬込郵便局にそれぞれ開設、移設したと報告があった。

### 3. 歴史地震の編集状況

金田編集出版委員長から、歴史地震第 28 号と 29 号について以下のとおり報告があった。

- ・28号に掲載論文は、2月10日にwebで公開した。
- ・29号への投稿数は最終的に21編(論説13・資料6・報告2)。投稿数が多いため、編集委員会(委員長と委員2名)に臨時編集委員(3名)を加えて編集体制を補強し、6名で分担して編集作業中である。
- ・29号の査読者で非会員の方は3名の予定である。投稿された論文の連絡著者のうち一名は、本日入会を承認された方である。
- ・29号は5月末までに論文の受理、6月に著者校正・印刷準備、7月末に発行の予定。非会員の査読者には各5,000円の謝礼金を支払うことを確認した。

#### 4. 会誌の寄贈について

金田編集出版委員長から、以下のとおり報告があった。

- ・現在の会誌の無償配付先は、都道府県立図書館、大学・研究機関の図書館など197箇所ある。会費のうち約千円が、その印刷製本代と郵送代に使われている計算になる。
- ・今後の無償配付の希望の有無をアンケートすることを提案する。

歴史地震29号の無償配付先への郵送時にアンケート用紙を同封すること、また、その際、研究会の財政が理由であることと、今後も冊子を希望する場合には必ず返信がほしいことを記した上で、回答を求めることとした。

#### 5. ホームページの管理・運営などについて

石辺広報委員長から、歴史地震研究会ホームページの修正内容について報告があった。修正点は、最新のお知らせの更新、第31回歴史地震研究会(名古屋大会)のお知らせの掲載、会誌「歴史地震」第28号の目次と論文の掲載、本会共催の首都圏形成史研究会のシンポジウムのお知らせの掲載、バックナンバー頒布の説明の追加であり、2月10日と2月20日の2回に分けてホームページを更新した。

#### 6. メーリングリストの規約改正について

石辺広報委員長から、「メーリングリスト musha の使い方と規約」の改訂案が示された。

議論の結果、案のとおり改正案が了承された。新しい規約は、メーリングリスト musha を通じて登録者に周知する。

#### 7. 2015年大会について

林総務委員長から、つくば市の会場候補地の下見結果の報告があった。松浦副会長から、植村会員と新谷会員を通じて京丹後市で近い時期に行われる別の会議の影響がないことを確認したこと、大会が行えるように準備が順調に進められていることが報告された。

2015年大会は京丹後市で2015年9月21日(月)～23日(水)とする案を、幹事会から総会に提案することを決めた。

#### 8. 2014年大会について

都築行事委員長および武村会長から、9月20日(土)～22日(月)に名古屋大学で実施予定の大会の準備状況について、以下について報告があった。

- ・21日(日)の公開講演会のプログラムと予定している講演者、会場(名古屋大学 IB 電子情報館大講義室 定員300名)の概要
- ・研究発表会と総会の会場である名古屋大学減災連携研究センターが完成したこと
- ・各会場のレイアウト案
- ・5月末を講演申込み締切、7月末を予稿集の原稿締切とする予定
- ・各種申込みの受け付け方法

以上の報告を受けて、第二報として日時・場所および行事委員会への参加・講演等の申込の方法を、研究会のホームページと musha メーリングリストで報せるとともに、日本地震学会ニュースレター5月号への掲載を依頼する準備をすることとした。予稿集の原稿フォーマットは会誌の編集が容易になるように定めて、ホ



ームページで示すこと。

#### 9. 功績賞候補について

武村会長から、前回の幹事会で決定した功績賞の対象者から、大会に出席し受賞する旨の返事を受けたと報告があった。授賞式は、2014年大会中の総会ではなく9月20日に行うことにした。

#### 10. 受賞候補者の推薦について

諸井監査役から、以下の2件の依頼があったことが報告された。

- ・日本学術振興会から育志賞の受賞候補者の推薦
- ・日本学術振興会から日本学術振興会賞受賞候補者の推薦

報告を受けて、賞の内容について調べて議論した結果、前者は大学院での学業成績や学習態度という学会には分からない事項が条件にあること、後者は候補者を選べる審査体制が研究会内にないことなどから、現状では幹事会が自ら受賞候補者を選べる状況にはないことを確認した。

#### 11. 次回の幹事会

2014年6月6日(金)17時からを予定。

### **2013年度第4回歴史地震研究会幹事会 議事録**

日時：2014年6月6日(金)17:00～19:30

場所：地震予知総合研究振興会会議室

出席者：武村雅之・松浦律子・林 豊・内田篤貴・都築充雄・石辺岳男・金田平太郎・北原糸子・諸井孝文

#### 1. 新規入会者の承認

内田財政委員長から、山本真一郎氏・松多信尚氏・山田 勉氏・小山 彰氏・安藤正純氏・坂本正夫氏・宮尾浩一氏・山口京一郎氏・石村大輔氏の入会申請について報告があった。この9名の入会を承認した。

#### 2. 会誌の不達

会誌「歴史地震」第28号が届いていないと会員1名から指摘があり、会員資格を確認の上で会誌を再送した例について、内田財政委員長から報告があった。

報告を受けて検討したが、研究会側の作業に落ち度はなく、特段の再発防止策が必要な事案ではないと判断した。

#### 3. 歴史地震の編集状況

金田編集出版委員長から、歴史地震第29号の編集状況について以下のとおり報告があった。

- ・29号への投稿21編(論説13・資料6・報告2)のうち14編(論説6・資料6・報告2)は受理済で、残り7編は審査中である。
- ・今後は6月中旬にすべての論文の受理を目指し、7月末に発行予定。
- ・残り7編も掲載されれば、総ページ数は310頁程度になる。

報告を受けて議論し、編集補助者の雇用(2日分程度)と、ページ増等による印刷経費の予算超過について、了承した。今後必要な作業として、幹事会便りの原稿作成、非会員査読者への謝礼振込の確認、会員送付先リストの作成、会誌に同封する会費振込用紙の印刷があることを確認した。また、本号で投稿数が増えたことなどから、来年度以降の編集体制について意見交換をした。

#### 4. 会誌の寄贈について

金田編集出版委員長から、歴史地震29号の無償配付先への郵送時に、「次号以降の寄贈をご希望の場合は、必ず返信いただきますよう」などと記した文書を同封することについて、具体的な書面の案文が示された。

各寄贈先の研究機関・図書館に対しては、9月末日までにFAXまたは電子メールで回答を求め、回答状

況をもとに今後の寄贈先の検討をする方針を確認した。

#### 5. ホームページの管理・運営などについて

石辺広報委員長から、歴史地震研究会ホームページの更新内容について報告があった。4月28日の更新は、古い会誌「歴史地震」の利用上の注意点を追記、議事録の追加、バックナンバー頒布の情報更新などである。この他、研究会の大会の案内の掲載、歴史地震の目次の修正をした。歴史地震の目次は、特に1～14号でホームページに掲載されているものが論文中の著者・タイトルと異なっているものが多数あるため、1～28号の著者・タイトル・掲載ページを確認し、大幅な修正を実施した。

歴史地震の古い号の目次の問題について情報交換をし、1～14号では冊子に収録された論文の目次というよりは、集会の予定プログラムがそのまま掲載されているので、本文を参照した修正が適切であることを確認した。また、ホームページ等で活用する際には、著者名が異字体で表記されていても、統一せずに冊子での表記をそのまま使うという配慮が、著作権の観点から求められることを確認した。歴史地震23号以降のウェブ公開については現在、PDFファイルにリンクする形になっているが、22号以前と同様のHTML形式への修正を検討した。

#### 6. メーリングリストの管理・運営について

石辺広報委員長から、メーリングリストmushaに新規2名の申込みがあり、リストに登録したことが報告された。

#### 7. 2014年大会について

内田財政委員長から、史学会、歴史学研究会、日本史研究会、日本歴史学会、地方史研究協議会、歴史科学協議会に対して、歴史地震研究会開催の周知文書を4月25日に送付したと報告があった。また、石辺広報幹事からは、本研究会のホームページの他、日本第四紀学会(メーリングリスト、ホームページのイベント情報欄)、日本地震学会(ニュースレター)、日本活断層学会(ニュースレター)、史学会(ホームページ)、日本地質学会(メールマガジン、ホームページの行事カレンダー)を通じて研究会の開催の案内をしたと報告があった。あわせて、10学協会に案内を出したことになる。

都築行事委員長および武村会長から、9月20日(土)～22日(月)に名古屋大学で実施予定の大会の準備状況について、以下について報告があった。

- ・大会と市民講演会について、名古屋大学減災連携研究センターへ文書により共催を依頼し承諾された
- ・共催により、会場使用料は、研究発表会とポスターセッションに使う減災館は無料、公開講演会の会場(IB電子情報館大講義室)は約5,000円/時間となる
- ・講演申し込みが54件と近年で最大の件数となったことから、休み時間が少なく、2日目の公開講演会の開始も遅くするタイトなプログラム案を組んだ
- ・公開講演会は、講演者からの了承を得た。一般の講演者2名には、リハーサルを兼ねて5月31日の中部歴史地震研究懇談会で発表していただき、好評であった。
- ・巡検対象の幸田町と半田市を6月17日に下見予定。
- ・今後、プログラムをホームページ、mushaメーリングリスト、日本地震学会ニュースレターで周知するとともに、座長も決める必要がある

以上の報告を受けて、共催する減災連携研究センター関係者の参加費は、歴史地震研究会会員と同一にすることを決めた。発表件数が多いので、一人で二件の口頭発表を希望する方の発表は、一方をポスターにするという基準でプログラムを修正することとした。巡検参加費や弁当代の確認、プログラムの修正をしたうえで、第三報として大会プログラムと参加申込の方法などを、研究会のホームページとmushaメーリングリストで報せるとともに、日本地震学会ニュースレター7月号への掲載を依頼する準備をすることとした。

#### 8. 次回の幹事会

2014年8月11日(月)17時からを予定。

#### 4. 第31回歴史地震研究会（2014年9月20～22日，名古屋大会）関係

##### 第31回歴史地震研究会講演申し込み案内

###### ■ 第31回歴史地震研究会（名古屋大会）のお知らせ（第2報）

歴史地震研究会では，以下の日程で第31回歴史地震研究会（名古屋大会）を開催することになりました．講演申し込みの締め切りは5月30日（金）です．研究発表会プログラム等は，次号の地震学会ニュースレターならびに歴史地震研究会ホームページ（<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/>）にてお知らせします．

##### 1. 場所：

名古屋大学減災連携研究センター 減災ホール  
（名古屋市営地下鉄名城線「名古屋大学」駅下車徒歩5分）

##### 2. 日程（発表件数によって時間変更の場合があります）：

9月20日（土）：

- ・研究発表会・ポスターセッション（9:30～17:00）
- ・懇親会（18:00～20:00）

9月21日（日）：

- ・研究発表会（9:30～12:30）
- ・公開講演会「東海地域の地震と防災について考えるー風化させない震災の記憶」

講演会場：名古屋大学 IB 電子情報館 2 階大講義室 14:00～16:30

※「南海トラフ巨大地震」の再来が懸念されている東海地域において，今も各地に営々と受け継がれている震災の記憶を多くの市民の皆様にご存知いただき，震災を他人ごとではなく自分のこととして考えていただくきっかけとなるように講演会を企画いたします．

- ・総会（17:00～18:00）

9月22日（月）：

- ・巡検幸田町・半田市（地域に残る昭和東南海地震・三河地震の記憶）（9:00～17:00）

##### 3. 講演申し込み

発表者（共同研究の場合は全員の名前と発表者名）・題名・発表形式（口頭・ポスター・どちらでもよい，のいずれか）を明記の上，5月30日（金）までに行事委員会あてに電子メール・手紙・FAX のいずれかでお申し込みください．口頭発表の持ち時間は1件につき15分（質疑応答を含む）の予定です．また，口頭発表ではPC 接続可能な液晶プロジェクターが使用できます（PC は発表者が持参願います）．申し込み先は末尾をご参照ください．

##### 4. 予稿集原稿の投稿（作成方法を変更していますのでご注意ください）

発表1件につきA4サイズ1ページ（厳守），カメラレディ（そのまま印刷可能な）原稿のご用意をお願いします．歴史地震研究会ホームページからダウンロードした標準フォーマット（Word ファイル）を書き換える形で原稿を作成のうえ，原則としてWord ファイルを電子メールで提出してください．やむを得ない場合は郵便にてお送り願います．7月31日（木）必着といたします．予稿集原稿の送付先は末尾をご参照ください．

##### 5. 研究発表会・懇親会・巡検等の申し込み

研究発表会・懇親会・巡検の参加および20日・21日の昼食（弁当，各日毎に明示下さい）

をご希望の方は、7月31日(木)までに、電子メール・手紙・FAXのいずれかでお申し込みください。申し込み先は末尾をご参照ください。

6. 各種申し込み先・予稿集原稿送付先・問い合わせ先

歴史地震研究会 行事委員会：都築充雄(委員長)・虎谷健司・中井春香

電子メール：rekishi2014@eri.u-tokyo.ac.jp

手紙・FAX：〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学減災連携研究センター内

第31回歴史地震研究会行事委員会 都築充雄

FAX：052-789-5023(減災連携研究センター代表)

## 第31回歴史地震研究会 プログラム等

### ■ 第31回歴史地震研究会(名古屋大会)のお知らせ(第3報)

歴史地震研究会では、9月20日(土)から22日(月)の3日間にわたって、名古屋大学東山キャンパスにおいて、第31回歴史地震研究会(名古屋大会)を開催いたします。研究発表会のほか、21日午後には名古屋大学減災連携研究センターと共催で公開講演会「東海地域の地震と防災について考えるー風化させない震災の記憶」を開催します。また、22日には地域に残る昭和東南海地震や三河地震の記憶を巡る現地見学会を行います。研究発表会・シンポジウム・懇親会・見学会への参加お申し込み、予稿集原稿の締め切りは7月31日(木)です。詳しくは末尾をご参照ください。

#### 1. 場所

名古屋大学東山キャンパス(名古屋市営地下鉄名城線「名古屋大学」駅下車徒歩5分)

研究発表会：減災連携研究センター減災館減災ホール

ポスターセッション：減災連携研究センター減災館減災ギャラリー

公開講演会：IB電子情報館2階大講義室

#### 2. プログラム

◎9月20日(土) 研究発表会・ポスターセッション・懇親会

受付開始：9:00～

参加費：歴史地震研究会会員 1,000円、非会員 2,000円、学生無料

(研究発表会・予稿集代)

【研究発表会】会場：名古屋大学減災館減災ホール

#### I 中部の地震と津波(9:30 - 11:00)

##### 1. 平川一臣

志摩半島の完新世古津波堆積物

##### 2. 羽鳥徳太郎

1586年天正地震の震源域と津波

##### 3. 河内一男

糸魚川ー静岡構造線と信州大町地震の断層運動

##### 4. 木股文昭・松多信尚

1944年東南海地震の被害再検討 (1) 戦禍がもたらした震災

##### 5. 武村雅之・虎谷健司

1944年12月7日東南海地震の震度分布と被害の特徴－飯田汲事データの検証と現地調査

6. 中井春香・武村雅之

1945年1月13日三河地震の震度分布と被害の特徴－死者数が多い要因について

休憩(11:00 - 11:10)

II 東北の地震, 津波, 噴火(11:10 - 12:10)

7. 安田容子

歴史資料にみる宮城県沿岸地域における2つの延宝五年(1677)津波

8. 蝦名裕一・今井健太郎・首藤伸夫

山奈宗真『岩手県沿岸大海嘯取調書』に記される近代以前の歴史津波痕跡について

9. 石村大輔・宮内崇裕・早瀬亮介

三陸海岸における古津波堆積物の認定と歴史津波との対比－岩手県山田町小谷鳥と宮城県南三陸町大沼におけるトレンチ調査

10. 林信太郎・樋渡蓮

鳥海山の1801年(享和元年)ブルカノ式噴火に伴う火山弾

昼休憩(12:10 - 13:10)

【ポスターセッション】会場:名古屋大学減災館減災ギャラリー

III ポスター(コアタイム:13:10 - 14:10)

11. 蟹江 由紀・蟹江 康光・布施 憲太郎

逗子町小坪の津波絵図と津波日記－逗子小坪と鎌倉材木座の大正関東地震津波

12. 安田容子・平川新

岩手県・宮城県・福島県における過去400年間の津波

13. 久永哲也・内田篤貴・浦谷裕明・小川典芳・中川進一郎・武村雅之・都築充雄

明応地震津波に関する東海地域での現地調査結果について(その3)

14. 原田智也・室谷智子・佐竹健治・古村孝志

1944年東南海地震・1946年南海地震のアンケート調査による震度分布

15. 松多信尚・木股文昭

三河地震における死亡者と活断層および地形との関係

16. 蝦名裕一

1611年慶長奥州地震津波に関する新出史料とその分析

17. 日名子健二・松崎伸一・平井義人

慶長豊後地震と豊府紀聞・豊府聞書

18. 松浦律子

1924年丹沢地震、1888年栃木の地震など、いくつかの明治・大正の地震の再検討(その2)

19. 山本真一郎・武村雅之・都築充雄・山中佳子・宮尾浩一・小山彰

歴史地震記録に学ぶ防災・減災ガイドについて

20. 武村雅之

神奈川県南足柄市の関東大震災を歩く－石碑から読める農村復興過程

21. 石橋克彦

1454(享徳三)年に奥州に大津波をもたらした地震について

22. 中西一郎

1854年安政、1707年宝永地震による城の被害

【研究発表会】場所:名古屋大学減災館減災ホール

IV 東北・日本海の地震と津波(14:10-15:40)

23. 今井健太郎・都司嘉宣  
津波痕跡高分布に基づく1833年天保出羽沖地震の波源再評価
24. 小諸拓也  
寺院被害記録から見た文政越後三条地震(1828)の震度分布
25. 水田敏彦・鏡味洋史  
1894年庄内地震の被害と地形条件
26. 鏡味洋史・水田敏彦  
1914年秋田仙北地震による秋田鉱山専門学校被害の文献調査
27. 相原淳一・駒木野智寛  
青森県深浦町椿山の津波堆積層と遺跡
28. 白石睦弥  
西津軽・男鹿間における歴史地震・津波の被害と復興

休憩(15:40 - 15:50)

V 関西の地震(15:50-16:50)

29. 松岡祐也  
文禄五年(1596)地震における瀬戸内海周辺での被害状況
30. 西山昭仁  
文禄五年(1596)伏見地震における京都盆地での被害評価
31. 新谷勝行  
1925年北但馬地震の供養塔・記念碑と関連行事について
32. 鹿倉洋介・深畑幸俊・平原和朗  
近畿地方周辺の内陸歴史地震と南海トラフ地震の時空間的關係

休憩(16:50 - 17:00)

VI 関東の地震と津波(17:00-18:00)

33. 村岸純・佐竹健治  
1703年元禄関東地震における東京湾奥部の津波被害の再検討
34. 中村亮一  
安政江戸地震の震度分布の再現性—三次元減衰構造を考慮した統計的グリーン関数による評価
35. 石辺岳男・佐竹健治・村岸純・鶴岡弘・中川茂樹・酒井慎一・平田直  
1885年以降に関東及びその周辺で発生した中～大地震の類型化(その2)—近年の地震検測データとの比較による震源・発震機構解推定の試み
36. 中西一郎  
関東地方の地震史料収集

【表彰式(功績賞)】場所:名古屋大学減災館減災ホール(18:00-18:15)

休憩・移動(18:15 - 18:30)

【懇親会】

時間:18:30~20:30

会場:名古屋大学生協 レストラン花の木(名古屋大学構内)

会費:4,000円程度(学生割引有)

9月21日(日) 研究発表会・公開講演会・総会

【研究発表会】会場:名古屋大学減災館減災ホール

VII-i 南海トラフの地震(前半)(8:30-9:45)

37. 石橋克彦

1498年明応東海地震と対をなす南海地震について

38. 都司嘉宣・今井健太郎・松岡祐也・佐藤雅美・芳賀弥生・今村文彦  
種子島、および長崎での宝永地震津波(1707)の浸水高

39. 安藤正純

史料からみる宝永地震(1707年)の際の日向国の被災状況

40. 井上公夫・中西一郎

宝永地震(1707)による高知県東洋町名留川の大規模土砂災害

41. 北原糸子

1707年宝永地震による東海道筋損所の大名手伝普請修復について

休憩(9:45 - 9:55)

VII-ii 南海トラフの地震(後半)(9:55-11:10)

42. 矢沼隆・都司嘉宣・平畑武則・松岡祐也・佐藤雅美・芳賀弥生・今村文彦  
愛知県における安政東海地震津波の痕跡調査

43. 矢内一磨

安政の大地震と堺地域一寺院記録にみる被災

44. 鳴橋竜太郎・原田智也・佐竹健治

安政東海地震津波(1854)による五ヶ所湾地域の被害状況

45. 山中佳子

神社明細帳でみた南海トラフ地震

46. 三神厚・弘中拓斗・齊藤剛彦

南海トラフを震源とする地震による各地の揺れの体験談

休憩(11:10 - 11:20)

VIII 西日本の地震と津波(11:20-11:50)

47. 香川敬生・中村真理子・野口竜也・西田良平

1943年鳥取地震直後のアンケートから推定される気象庁震度分布およびそれに基づく震源像

48. 松崎伸一・日名子健二・平井義人

慶長豊後地震当時における早吸日女神社の社殿位置と津波高

昼休憩(11:50 - 13:00)

IX 台湾の地震及び地震全般(13:00-14:30)

49. 塩川太郎

1935年台湾新竹一台中地震, 新竹州の地震記念碑について

50. 石井寿・宇佐美龍夫

日本歴史地震総表について

51. 保立道久

ジャパネシアの神話と地震・噴火

52. 植村善博

帝都復興から丹後震災復興へー小林善九郎の貢献

53. 樋口茂生・阿部裕寛・東将士・稲田晃・伊藤彰秀・岩本広志・上加世田聡・川崎健一・楠恵子・佐藤伸司・品田正一・末永和幸・渡邊拓美

現代生成層-災害との関わりの小括

54. 今村隆正

歴史災害調査と写真の活用

#### 【公開講演会】

『東海地域の地震と防災について考えるー風化させない震災の記憶』

日 時:2014年9月21日(日) 15:00~17:30

会 場:名古屋大学 IB 電子情報館 2階大講義室

※「南海トラフ巨大地震」の再来が懸念されている東海地域において、今も各地に営々と受け継がれている震災の記憶を、多くの市民のみなさんに知っていただき、震災を他人ごとではなく自分のこととして考えていただくきっかけとなるように講演会を企画いたします。

プログラム:

15:00 開会挨拶	名古屋大学減災連携研究センター 福和伸夫
15:05 記念堂とともにー天野若圓以来 120年ー	濃尾震災記念堂 西村道代
15:50 深溝松平家の歴史に見る震災の爪痕	愛知県幸田町教育委員会 神取龍生
16:45 歴史に学ぶ防災論:濃尾・関東・東南海	名古屋大学減災連携研究センター 武村雅之
17:30 閉会挨拶	歴史地震研究会副会長 松浦律子

休憩(17:30 - 17:40)

#### 【歴史地震研究会総会】(17:40ー18:40)

9月22日(月) 見学会(巡検)

「愛知県幸田町・半田市 地域に残る昭和東南海地震・三河地震の記憶」

名古屋市内発着、大型バスにて幸田町・半田市に残る三河地震・昭和東南海地震の遺構を巡ります。

時 間:9:00~16:00(予定)

参加費:5,000円程度(予定、バス代・昼食代・保険代)

### 3. 参加申し込み

研究発表会・懇親会・見学会の参加および20日・21日の昼食(弁当)をご希望の方は、7月31日(木)までに、電子メール・手紙・FAXのいずれかでお申込みください。申し込み先は末尾をご参照ください。

見学会の申込みにおいては保険加入のため、氏名のほか住所・生年月日・電話番号(携帯可)をお知らせください。見学会のバスは人数に限りがあるため、申込み先着順とします。

昼食は会場付近のコンビニで購入可能です。また、21日(土)には名古屋大学構内の食堂は営業します。20日・21日の弁当販売は予約販売のみと致します。各日毎に明示してお申込み下さい。

#### 《参加費, 昼食弁当代》

研究発表会(予稿集代含む):会員 1,000円, 非会員 2,000円, 学生無料

懇親会:4,000円程度(学生割引有)

見学会:5,000円程度(バス代・昼食代・保険代)

昼食弁当代:800円程度(20日・21日)

### 4. 予稿集原稿の投稿および研究発表について(作成方法を変更していますのでご注意ください)

発表1件につきA4サイズ1ページ(厳守), カメラレディ(そのまま印刷可能な)原稿のご用意をお願いします。歴史地震研究会ホームページからダウンロードした標準フォーマット(Wordファイル)を書き換える形で



原稿を作成のうえ、原則として Word ファイルを電子メールで提出してください。やむを得ない場合は郵便にてお送り願います。7 月 31 日(木) 必着といたします。予稿集原稿の送付先は末尾をご参照ください。

口頭発表の持ち時間は 1 件につき 15 分(質疑応答を含む)です。また、口頭発表では PC 接続可能な液晶プロジェクターが使用できます(PC は発表者が持参願います)。ポスター発表につきましては、幅 89 cm、高さ 183 cm の掲示板に掲載できるポスターをご用意いただき、9 月 20 日(土)12:30 までに減災ギャラリーの所定の場所に掲示してください。

5. 各種申し込み先・予稿集原稿送付先・問い合わせ先

歴史地震研究会 行事委員会：都築充雄(委員長)・虎谷健司・中井春香

電子メール：rekishi2014@eri.u-tokyo.ac.jp

手紙・FAX：〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学減災連携研究センター内

第 31 回歴史地震研究会行事委員会 都築充雄

FAX:052-789-5023 (減災連携研究センター代表)

## 5. 各種お知らせ・資料

### 『歴史地震』原稿募集のお知らせ

会誌『歴史地震』では、通年、投稿を受け付けておりますが、2015年7月末発行予定の次号(第30号)に掲載希望の方は、2015年1月16日(金)までにご投稿をお願いいたします。

#### 1. 募集原稿の内容

『歴史地震』は、歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成し、記事の種別として、論説、資料、講演要旨、報告、紹介を取り扱います。編集出版委員会では、第30号を次の記事を中心に構成する方針です。

- (1) 2014年9月の第31回歴史地震研究会での発表内容に関連する記事
  - (2) 昨年までの研究会で発表された内容、あるいはそのほかのオリジナルな内容に関する記事
  - (3) 2014年9月の第31回歴史地震研究会の講演要旨集に掲載された講演要旨
- これらのうち、(1)(2)の投稿をお待ちしています。

#### 2. 編集体制と編集方針

『歴史地震』は以下の編集体制・方針を取っております。

1. 編集出版委員会で編集作業を進めます。
2. 論説および資料については、査読制を取り入れています。少なくとも1名の査読者が原稿を読んで意見を著者にフィードバックし、不備を指摘・訂正していただきます。
3. 原稿を作成する標準的な体裁『歴史地震』の標準形式』を定めています。この形式に従った Word ファイルが歴史地震研究会のウェブサイト (<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/>) からダウンロードできますので、この Word ファイルを書き換える形で原稿を準備されることをお奨めします。
4. 電子ファイルでの投稿を奨励します。少なくとも本文は電子ファイル(フロッピーディスク等あるいはメール)で投稿していただくと、編集作業が効率的に行えますので、ご協力をお願いいたします。
5. 一昨年より「投稿シート」(次頁に記載)を大幅にリニューアルしておりますので、必ずこのシートに必要事項をご記入のうえ、このシートとともにご投稿ください。「投稿シート」は上記ウェブサイトからもダウンロードできます。
6. 最終原稿は、印刷物としての『歴史地震』のほか、PDF 版として歴史地震研究会のウェブサイトで一般に公開します。原則として、印刷物はモノクロで刊行します。
7. その他詳細は、編集規定をご覧ください。

#### 3. 投稿先

- ・電子メールでご投稿の場合: [histeq@erc.adeq.or.jp](mailto:histeq@erc.adeq.or.jp)
  - ※ 添付ファイルが 5MB 以上の大きさになる場合には、宅ふぁいる便などのファイルアップロードサイトをご利用になるか、CD などに焼いてご郵送ください。
  - ※ 原稿を受領した場合は、必ずその旨の返信をしております。1週間以上経過しても受領の連絡がない場合には、何らかの原因でファイルを受け取ることができていない可能性がありますので、お手数ですが、上記アドレスまで再度お問い合わせください。
- ・郵送でご投稿の場合: 〒 263-8522 千葉県稲毛区弥生町 1-33  
千葉大学大学院理学研究科地球科学コース 金田平太郎 宛
- ・ご投稿の際には、忘れずに「投稿シート」もご提出ください。

# 『歴史地震』投稿シート

ver.201207

## <基本情報>

記事の種類	論説・資料・報告・紹介 ※ 論説および資料の場合は、査読の対象となります。	
記事タイトル		
著者		
連絡責任者	氏名	
	所属	
	郵便番号	〒
	住所	
	電話番号	
	電子メールアドレス	

## <質問・チェック事項>

### 記事について

(1) 記事の内容は過去の歴史地震研究会で発表した内容ですか？	はい・いいえ
・「はい」の場合、発表年および開催場所をご記入ください	
※ 発表済の場合は、編集出版委員会の判断で、通常2名以上の査読者を1名とすることができます(論説、資料の場合)。	

### 体裁・形式について

(2) 原稿は、歴史地震研究会ウェブサイトからダウンロードした標準形式のWordファイルを書き換えて作成したものですか？	はい・いいえ
<p>・「いいえ」の場合、以下の標準形式に従っていることを十分に確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> A4 サイズ, 左右の余白各2cm, 上下の余白各2.5cm</li> <li><input type="checkbox"/> フォントは和文が明朝体, 英文がTimes</li> <li><input type="checkbox"/> 文字サイズは, 和文タイトル16 pt , 英文タイトル12pt, 所属・著者名10.5pt, 英文要旨10.5pt.</li> <li><input type="checkbox"/> 著者の連絡先は和文の所属に脚注として加える.</li> <li><input type="checkbox"/> キーワードは英文要旨の次の行に Keywords: xxxx, www, zzz. のように記入する.</li> <li><input type="checkbox"/> キーワードの下でセクションを切り替え, 本文は2 段組とする. 段の横幅は8cm, 段の間は7mm 程度, 1 行22 文字, 1 ページ45 行とする.</li> <li><input type="checkbox"/> 本文の文字サイズはすべて10.5pt .</li> </ul>	

(3) 記事の種類が「論説」あるいは「資料」の場合、英文の表題、英文の著者名・所属、英文要旨(200語程度)、英文キーワードを備えていますか？	はい・いいえ
(4) 句読点は「,」と「.」で統一されていますか？ ※ されていない場合は検索・置換ツールを使って統一してください	はい・いいえ
(5) 本文中で和暦と西暦が混同されるおそれはないですか？ ※ 歴史地震研究会では、混同を避けるため、和暦には漢数字(宝永四年十月四日など)、西暦にはアラビア数字(1707年10月28日など)を使うことを推奨しています。	はい・いいえ
(6) 西暦1582年以前の西暦は(グレゴリオ暦ではなく)ユリウス暦を用いていますか？	はい・いいえ
・「いいえ」の場合、使っている暦の種類が明記されていますか？	はい・いいえ

#### 図・写真について

(7) 既公表の文献(自分で公表したものも含む)や機関・個人が所蔵している史料から転載した図や写真はありますか？	はい・いいえ
・「はい」の場合、出版社・学会や機関、個人に転載許可をとっていますか？	はい・いいえ
(8) 製本(印刷)版でカラー図・写真の掲載を希望しますか？	はい・検討中・いいえ
・「はい」もしくは「検討中」の場合、希望する図・写真の番号をご記入ください	
※ カラー図を希望された場合、本文中にはモノクロの図が掲載され、そのカラー版が口絵として巻頭に再掲される格好となります。なお、カラー頁料金(例年、1頁あたり22000円程度)が発生します。 ※ 歴史地震研究会ウェブサイトで公開される電子版(PDF版)では、希望の有無に関わらず、フルカラーとなります。	
(9) カラー掲載しない図について、モノクロ印刷に必要な情報が判読・識別可能ですか？	はい・いいえ

## 歴史地震研究会会誌編集規定(2007年10月4日制定, 2009年7月23日一部改定, 2012年8月8日一部改定)

### 総則

1. 本規定は、歴史地震研究会(以下、本会)の会誌の投稿、査読、編集および出版に関する手順と規則を定めるものである。
2. 本会が発行する会誌の名称は、『歴史地震』とする。英文では、**Historical Earthquakes** と表記する。
3. 本会の会員は、会誌に原稿を随時投稿できる。また、会員以外からの投稿も適宜受け付ける。
4. 編集出版委員会は、会員または会員以外に記事の執筆を依頼することができる。
5. 本誌の質を高めることを目的として、査読制を採用する。査読の対象とする記事の種別、および査読の手順と基準は、細則に定める。
6. 会誌の記事の投稿から出版までの順序は次のとおりとし、詳細は細則に定める。
  - (1) 投稿者は、編集出版委員会に原稿を提出する。
  - (2) 編集出版委員会は、投稿された原稿を速やかに受け付け、受付日を記録する。また、原稿毎に編集出版委員会の構成員のうちから編集担当者を決定する。
  - (3) 編集担当者は、投稿された原稿を細則に定める基準に従って点検し、必要と判断した場合は、著者に修正を要求することができる。
  - (4) 査読の対象となる原稿は、以下の査読手順を経ることとする。
    - a) 編集出版委員会は、会員または会員以外から査読者を選定する。
    - b) 査読者は、細則に定める基準に従って原稿を点検し、編集出版委員会に意見を提出する。
    - c) 編集出版委員会は、投稿された論文の掲載の採否を、査読者の意見に基づいて決定する。
  - (5) 編集出版委員会は、掲載を可とした原稿について、受理日を記録する。
  - (6) 投稿者は、原稿を校正および清書した後、最終原稿を編集出版委員会に提出する。
7. 各事業年度の会誌の発行号数および部数は、総会が決議した事業計画に沿う。また、会誌に掲載した記事は、本会のホームページで公開する。
8. 会誌に掲載された記事の著作権は、本会に帰属する。
9. 記事の著者は、個人ホームページおよび所属機関リポジトリページ等において、記事の電子ファイルを公開することができる。ただし、以下の点をすべて満たすことを条件とする。
  - (1) 本会ホームページで公開している電子版記事(PDF)を用いること。別刷として著者に配付される高解像度 PDF や冊子版記事をスキャンして作成した電子ファイルの公開は認めない。
  - (2) 記事の著作権の本会への帰属を明記すること。
  - (3) 記事の出典を明記すること。

### 細則

#### (原稿の種別)

1. 会誌は、歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成する。記事の種別は、論説・資料、講演要旨、報告・紹介、研究会記事とする。
2. 記事の種別は、次の基準で分類する。
  - (1) 論説・資料は、次のいずれかであり、査読の対象となる。
    - a) 著者による未発表の新知見を含む研究成果を記した論文
    - b) データ・文献・史資料を系統的に収集・整理・分類し、研究に寄与する価値を有する論文
  - (2) 講演要旨は、直近の研究発表会または講演会で発表済みの研究成果の要旨である。
  - (3) 報告・紹介は、研究集会の報告、研究プロジェクトの紹介、著書の紹介など、新しい情報に関する短い記事である。
  - (4) 研究会記事は、本会の活動に関する報告または連絡の記事である。原則として、幹事会または各委員会が執筆する。

3. 記事の刷り上り時の分量は A4 判で、論説・資料は 3～20 頁、講演要旨は 1～2 頁、報告・紹介は 4 頁以下を標準とする。ただし、編集出版委員会が特に必要と認めた場合は、この限りではない。
4. 記事の構成は、次のとおりとする。
  - (1) 論説・資料および報告・紹介は、表題(和文と英文)、著者・所属(和文と英文)、要旨(英文 200 語程度)・キーワード(英文 5 語程度)、本文(和文、図・表・引用文献を含む)で構成する。ただし、報告・紹介では、要旨とキーワードを省くことができる。論説には対象とした地震名を引用文献の前に明記する。
  - (2) 講演要旨は、表題(和文)、著者・所属(和文)、本文(和文、図・表・引用文献を含む)で構成する。ただし、英文で表題、著書・所属を加えてもよい。
- (投稿者)
5. 投稿者は、記事の種別、著者の連絡先を明記して、郵送または電子メールで編集出版委員会宛に原稿 1 部を提出する。A4 判の用紙で標準書式にならって原稿を作成することが推奨される。
6. 依頼により原稿を執筆する著者に対して、本会は幹事会が決定する額の謝礼を支払うことができる。
7. 投稿者は、編集出版委員会から査読者の意見と編集者の判定を受け取った後、原稿を点検し、必要な修正を加えた修正稿を編集出版委員会に提出する。
8. 投稿者と査読者の意見が対立した場合は、投稿者は編集担当者に対して、編集出版委員会が別の査読者を選定して意見を求めるよう請求できる。
9. 投稿者は、編集出版委員会からの受理の通知後、高品質に印刷した最終稿および電子原稿をすみやかに編集担当者に提出する。電子原稿は、編集出版委員会が定める標準書式に従って作成することが推奨される。
10. 投稿者は、付則に定める掲載料を支払わなければならない。
- (編集担当者)
11. 編集担当者は、投稿された原稿を以下の点について判定する。
  - (1) 明白な誤りがないか
  - (2) 内容が会誌の対象の範囲に合致するか
  - (3) 記事の種別が適切か
12. 論説・資料として投稿された原稿について、編集担当者は、細則 11 項による編集担当者自らの判定と、査読者の意見を基に、原稿の取り扱いを次の中から決定する。
  - a) 掲載可
  - b) 修正を条件に掲載可
  - c) 修正後に再査読し、その後に再度判定
  - d) 編集出版委員会で協議して取り扱いを判定
  - e) 掲載不可
  - f) 原稿種別の変更ただし、原稿の不備が改善しうると期待できる場合は b)、原稿種別を変更すべき場合は b)、原稿に相当大幅な修正を要する場合は c)、複数の査読者の意見が大きく異なる場合は d)、原稿に修正困難な明白な誤りがある場合は e)、細則 1 項に定める会誌の対象の範囲に合致しない場合には e)、原稿種別を変更して掲載する場合には f)、と判定する。但し、f)の場合には原稿の文末に編者注を付け、編集者により変更に至った経緯を明記する。
13. 講演要旨および報告・紹介の編集担当者は、必要に応じて投稿者に修正を求めることができる。
- (査読者)
14. 査読者は、査読を通じて会誌の質を高めるよう努める。
15. 査読者数は、論説・資料は 2 名以上とする。ただし、直近の研究発表会または講演会で既発表の内容に基づく原稿については、編集出版委員会の判断で、査読者数を 1 名とすることができる。編集出版委員会が査読者を人選し、依頼する。
16. 査読手続きに必要な郵送料は本会が負担する。また、会員以外の査読者に対して、本会は幹事会が決定

する額の謝礼を支払うことができる。

17. 査読を依頼され、専門分野などの理由で査読が不可能と判断した場合は、すみやかに、編集出版委員長または編集担当者へ通知することとする。また、査読者は、専門分野などの理由で必要な場合、編集担当者を通じて、査読者の追加あるいは会員による助言を要求できる。
18. 査読者は、内容に明白な誤りがある場合、表現が不適切な場合、論理に問題がある場合、原稿の種別が適切でない場合のいずれかに該当する原稿に対しては、改善意見を述べることとする。また、論説・資料については、細則 2 の要件を満たしているか否かを判定し、編集担当者に対して、原稿の取り扱いについての意見を示すこととする。

(その他)

19. 編集出版委員会は、特定のテーマを設定して会誌の原稿を募集し、会誌に特集を編むことができる。
20. 編集出版委員会は、投稿者の参考のために原稿の標準書式を、査読者の参考のために原稿点検の標準チェックシートを、それぞれ作成する。

付則

1. 掲載料は次のとおりとする

(1) 連絡担当著者が会員の場合

全頁モノクロであり、かつ細則 3 に定める標準の頁数以内であれば、掲載料は無料とする。カラーの頁を含む場合は、モノクロ頁との印刷経費の差額に相当する実費をカラー頁分が掲載料として課される。また、標準の頁数を超過した場合は、会誌発行経費の頁単価に、超過分の頁数をかけた額が掲載料として課される。

(2) 連絡担当著者が非会員の場合

会誌発行経費の頁単価に、印刷時の頁数をかけた額が掲載料として課される。カラーの頁については、会員と同じとする。

(3) 依頼による執筆の場合は、前二項によらず、掲載料は無料とする。

2. 本規定は、2013 年発行の『歴史地震』第 28 号より適用する。

## 歴代研究会開催地一覧

これまでの開催地と、特集した地震をまとめた。なお 2015 年は候補予定である。

回	年	場所	特集地震	回	年	場所	特集地震
1	1984	東大地震研		17	2000	長野	善光寺
2	1985	東大地震研		18	2001	象潟	象潟
3	1986	東大地震研		19	2002	立山	飛越
4	1987	東大地震研		20	2003	佐倉・九十九里	元禄
5	1988	静岡		21	2004	鳥羽	安政東海
6	1989	東大地震研		22	2005	江戸東京博物館	安政江戸
7	1990	大阪		23	2006	大船渡	明治・昭和三陸・チリ津波
8	1991	徳島		24	2007	下田	安政東海
9	1992	東大地震研		25	2008	つくば	関東
10	1993	江戸東京博物館		26	2009	大津	姉川・元暦
11	1994	須崎	安政南海	27	2010	東大地震研	
12	1995	田老町	明治・昭和三陸	28	2011	新潟	名立崩れ
13	1996	田辺	昭和南海	29	2012	横浜	関東
14	1997	島原	島原	30	2013	秋田	
15	1998	浜名湖	明応東海	31	2014	名古屋	東南海
16	1999	伊賀上野	伊賀上野	32	2015	京丹後	

## 歴史地震研究会への入会手続きのご案内

歴史地震研究会に入会をご希望の方は、次頁の申請書に必要事項を記入して、係(財政委員長)までお送り下さい。

送り先: 日本物理探鑛(株)関東支店 内田篤貴(当会財政委員長)

〒143-0027 東京都大田区中馬込 2-2-12

FAX.03-3774-9353 電子メール: auchida@n-buturi.co.jp



## 歴史地震研究会入会申請書

歴史地震研究会会長 殿  
歴史地震研究会への入会を申請いたします

年 月 日

ふりがな 氏名		関連分野	
生年月日	年 月 日	性別	男 ・ 女
所属機関	名称・部署		
	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒 TEL: FAX:	
自宅	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒 TEL: FAX:	
会誌送付先	1. 所属機関      2. 自宅		

----- きりとり -----

- 注 1: 申請書に記された情報は歴史地震研究会の活動以外の目的には使用しません。  
 注 2: 会員に配布される名簿に記載されることを希望しない項目は()内に記入してください。  
 注 3: 希望する会誌送付先に○印を記してください。

名簿欄記入例（自宅情報は非開示, 所属先に会誌送付希望の場合）

ふりがな 氏名	じしん きぶろう 地震 三郎	関連分野	災害科学
生年月日	19〇〇年 〇〇月 〇〇日	性別	男 <input checked="" type="radio"/> ・ 女
所属機関	名称・部署	歴史地震研究所・災害研究課	
	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒000-0001 東京都弥生区文京 1-1-1 TEL: 00-0000-0001      FAX: 00-0000-0002 〇〇@〇〇. 〇〇	
(自宅)	住所 電話番号・FAX 電子メール	〒000-0001 東京都弥生区文京 マンション耐震 1-1 TEL: 00-0000-0003      FAX: 〇〇〇@〇〇. net.jp	
会誌送付先	1. 所属機関 <input checked="" type="radio"/> 2. 自宅		

## 歴史地震研究会会則

(2000年10月1日制定, 2002年9月7日改定, 2006年9月16日改正,  
2008年9月14日改正, 2012年9月15日改正)

### 第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、『歴史地震研究会』(The Society of Historical Earthquake Studies)という。

(目的)

第2条 本会は、歴史上の地震ならびにそれに関連する諸現象・諸問題に関して、理学、工学、人文科学、社会科学、および防災科学の研究を促進し、相互の情報交換を行うとともに、一般市民を交えた知識の共有と相互理解をはかることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 研究成果発表会および講演会
- (2) 会誌の刊行
- (3) 広報活動
- (4) 歴史地震研究に関する業績の表彰
- (5) その他、必要な事業

(事務所)

第4条 本会は、事務所を東京都千代田区猿樂町1-5-18 公益財団法人 地震予知総合研究振興会に置く。

(事業年度)

第5条 本会の事業年度は、毎年9月1日に始まり、翌年8月31日に終わる。

(会則改正)

第6条 この会則は、総会において、表決権を持つ出席者の3分の2以上の賛成により、改めることができる。

(規定)

第7条 この会則の実行に必要な規定は、幹事会の議を経て別に定める。

### 第2章 会員

(会員)

第8条 本会は次に定める会員からなる。

- (1) 会員 本会の目的に賛同する個人

第9条 会員は付則に定める年会費を、各年度始めに納入しなければならない。

(会員の特典)

第10条 遅滞なく会費を納めている会員は、次の特典を有する。

- (1) 会誌の配布を受けること
- (2) 研究発表会において、研究成果を発表すること
- (3) 会誌へ論文などを投稿すること
- (4) 総会に出席し、表決権を行使すること
- (5) 総会または幹事会に対して議論すべき事項を提案すること

(入会)

第11条 会員になろうとするものは、所定の申し込み書を会長に提出し、幹事会の承認を得なければならない。

(退会)

第12条 退会しようとする会員は、会長に退会届を提出しなければならない。この場合、未納会費がある時は、それを全納しなければならない。

(入退会時期)

第13条 会員の入退会は、事業年度を単位とする。

(除名)

第14条 本会の会員として著しく不適切な行為のあったと判断されたものは、幹事会の議を経て、会長はこれを除名することができる。

### 第3章 役員

(役員)

第15条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 1名
- (3) 幹事 5名
- (4) 監査役 2名

第16条 会長は会員の中から総会で選出する。

2 副会長および幹事は会長が会員の中から委嘱する。

3 監査役は会員の中から総会で選出する。

4. 会長および監査役の選出手続きは付則に定める。

第17条 会長は本会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は会長を補佐し、会長不在時には会長を代行する。

3 幹事は幹事会を構成し、かつ総務、財政、行事、広報、編集出版の各委員長をつとめる。

4 監査役は本会の業務の執行および会計を監査する。

5 各委員会の委員は委員長が選任し会長が委嘱する。

### 第4章 総会および幹事会

(総会の招集)

第18条 総会は年1回、会長が招集する。総会は会員の10分の1の実出席を要する。委任状は発行しない。

(総会の決議事項)

第19条 総会では次のことを行う。

- (1) 次期会長の選出
- (2) 次期監査役の選出
- (3) 前年度の事業経過および決算報告と、その承認
- (4) 次年度の事業計画および予算案の提案と、その承認
- (5) 会則の改正
- (6) その他

(幹事会)

第20条 幹事会は会長が招集し年2回以上行う。議長は会長が行う。その他幹事からの提案で、臨時に開くことができる。幹事会は幹事の2/3以上の参加をもって成立し、決定は出席者の過半数をもって行う。幹事会は代理出席を認める。

### 第5章 会計

(資産)

第21条 本会の事業は会費、寄付金、事業に伴う収入および雑収入によって行う。

(事業計画・予算案)

第22条 本会の事業計画およびこれに伴う予算は、会長および財政委員長がこれを幹事会の議を経て作成し、総会の議決にもとづき執行する。

(事業計画・収支決算の監査)

第23条 本会の事業報告および収支決算は、会長および財政委員長がこれを作成し、監査役の監査を経て幹事会および総会において承認を受けなければならない。

付 則

第1条 第10条による会費は、次の通りとする。

会員 3000円

第2条 第16条による会長選出手続 会長候補者は3名以上の推薦者をもって立候補し、総会の1週間前までに幹事会に届け出る。

第3条 第16条による監査役選出手続 監査役は3名以上の会員による推薦を受けた者の中から総会で選出される。推薦者ないし被推薦者は総会開催前に幹事会に届け出る。

第4条 本会則は、2008年9月15日から施行する。

組 織

総務委員会

文書の受付、配布、会誌『歴史地震』の発送  
歴史地震研究発表会の開催に関する事項

財政委員会

予算の編成、決算に関する事項および研究会の財政に関する企画  
普通会员の入退会、除籍に関する事項および名簿に関する事項

行事委員会

歴史地震研究発表会の開催に関する事項および他学会協賛に関する事項

広報委員会

歴史地震研究発表会および会誌『歴史地震』の広報に関する事項

編集出版委員会

会誌『歴史地震』の編集出版に関する事項

## 歴史地震研究会功績賞内規

平成24年9月15日幹事会承認

第1条 本規定は、歴史地震研究会会則第3条(4)項に規定する業績の表彰に基づき、歴史地震研究の進歩・発展ならびに本会の発展に対して顕著な功績を挙げられた方に贈る「歴史地震研究会功績賞」に関して定める。

第2条 本賞の対象は、本会会員とする。なお、本賞の既受賞者は対象から除く。

第3条 対象業績は歴史地震研究の進歩・発展、歴史地震研究会の発展に対するものとする。

第4条 授賞式は、会員総会の場合において行い、受賞者に賞状を贈る。

第5条 功績賞選考委員会が受賞者の選考を行い、幹事会が決定する。功績賞選考委員会は、正・副会長、総務幹事、財政幹事から構成する。

附則;1. この内規は、幹事会で変更することができる。

2. この内規は、平成24年9月15日より施行する。

## 歴史地震研究会役員および委員名簿

(2014年7月1日現在)

### 役員名簿

会長 武村雅之  
副会長 松浦律子  
幹事 林 豊, 内田篤貴, 都築充雄, 石辺岳男, 金田平太郎  
監査役 北原糸子, 諸井孝文

### 委員名簿

総務委員会 委員長 林 豊  
財政委員会 委員長 内田篤貴  
行事委員会 委員長 都築充雄 委員 虎谷健司, 中井春香  
広報委員会 委員長 石辺岳男  
編集出版委員会 委員長 金田平太郎 委員 行谷佑一, 小田桐(白石)睦弥  
協力 小松原 琢, 松浦律子, 諸井孝文